

令和4年度 《後期》 学校経営計画

I 学校教育目標

夢をもち、未来を拓く子ども
～確かな学力と豊かな心とたくましい体をもつ子の育成～

【合言葉】

「きたえ ふれあう 富沢っ子」

【目指す学校像】

- 子どもにとって、一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを実感できる学校
 - ・自分の思いや願いを達成することのできる学校
 - ・自分や仲間の成長が分かり、自己有用感・自己肯定感を深めることのできる学校
 - ・仲間とともに学び、人や社会とのつながりが実感できる学校
- 家庭や地域にとって、安心・安全で子どもの育ちが見える学校
 - ・子どもの学ぶ姿や地域とともにある学校の姿を発信する学校
 - ・地域の素材や人材など教育環境を活用し、地域に学ぶ学校
 - ・地域、関係機関と連携し、子どもの安全を守る学校
- 教職員にとって、連帯感と働きがいのある学校
 - ・深い愛情をもって子どもの成長にかかわり、喜び合える学校
 - ・同僚性を培い、実践的指導力やチーム貢献力を高めることのできる学校
 - ・教育公務員としての信頼と期待に応え、力を発揮することのできる学校

【目指す子ども像】

- 《知》仲間とともに、意欲的・協働的に学ぶ子ども
- 《徳》仲間とともに、前向きに認め高め合う子ども
- 《体》仲間とともに、粘り強く心身を鍛える子ども

【目指す教職員像】～意識と感度の高い教職員集団～

- 子ども・学校への情熱を常に持ち続ける教員…〔揺るぎない信頼と愛情〕
- 同僚性を培い、主体的に学び続ける教員…〔創造性に富む協調と協働〕
- 家庭、地域を理解し、連携・協働する教員…〔歴史と伝統の継承と発展〕

II 中期ビジョン（令和4年度～令和7年度）

1 中期目標

今、世の中は、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0の到来、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大、ロシア・ウクライナ情勢の長期化に起因するエネルギー、生活商品、サービスへの影響など、先行き不透明で予測困難な時代を迎えている。

このような中で学校は、一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となるための教育の実現が求められている。

具体的には、主体的に学習に取り組む態度や基礎的な知識及び技能、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力といった確かな学力を育成すること、また、美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にし人権を尊重する心、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異質なものの寛容などといった豊かな心を育むこと、さらには、自ら進んで運動に親しみ、心身を鍛えることができることや健康に関する知識を身に付け、自主的に健康な生活を実践することができること、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結びつけることができるようにすることなどといった、健やかな体を培うようにすることが大切である。

本校は、本年開校123年目、特認校37年目を迎える。富沢地区住民の「地域の活性化に資するために学校を存続させたい」という熱意で特認校として存続を願った。富沢の地域をあげて「地域の学校」の「富沢っ子」として受け入れ、子どもたちの「第2のふるさと」を提供するという意識の下、「ふるさと家族」として、子どもたちのふれあい学習にも協力を惜しんでこなかった。しかし、地域の高齢化が進み、老人クラブの解散や「いこいの家」の旭川市への返還が行われおり、地域の行事への協力や参加等について見直していかなければならぬ。一方、富沢地区の豊かな自然を生かした特色ある教育活動と少人数によるきめ細かな指導を期待した保護者は、我が子の教育の場として本校を選択している。保護者は本校に通学させることで、人間性あふれる「豊かな心」が生まれ、「健やかな体」を鍛え、「確かな学力」が身に付くなど、子どものよさを充分引き出ししてくれる、という願いと期待を強くもっている。

私たち教職員は、「揺るぎない信頼と愛情」「創造性に富む協調と協働」「歴史と伝統の継承と発展」を基盤に、常に子どもに寄り添い、共に活動し、優しさと厳しさの調和した活力ある教育を行う。また、「チーム富沢小」として組織された教職員が、英知を結集し、本校の伝統の「継承・深化・発展」を目指し、自然や人と積極的にかかわり、豊かに鍛えふれあうことを基盤に子ども一人一人に「生きる力」を育む特色ある学校運営に努めなければならない。

以上のことから義務教育9年間の発達段階を踏まえた系統性・連続性のある教育課程の編成にあたり、中期目標「義務教育9年間で目指す子ども像（15歳の姿）」を次のとおり設定することにした。

【義務教育9年間で目指す子ども像（15歳の姿）】

		知	徳	体
		仲間とともに意欲的・協働的に学ぶ子ども	仲間とともに前向きに認め高め合う子ども	仲間とともに粘り強く心身を鍛える子ども
育成を目指す資質・能力	(ア) 知識及び技能の習得	○教科等の基礎的・基本的な学習内容を理解することができる。	○道徳的な価値について理解することができる。	○健康・安全に関する基本的事項を理解することができる。 ○基本的な運動の技能を身に付けることができる。
	(イ) 思考力・判断力・表現力等の育成	○教科等の見方・考え方を生かして思考し、解決する力を身に付けることができる。 ○情報を適切に活用し、根拠に基づき発信する力を身に付けることができる。	○多様な価値を認め、他者と対話し、議論する力を身に付けることができる。 ○自己を見つめ、多面的・多角的に考える力を身に付けることができる。	○運動や健康・安全に関する課題を見つけ、適切に対応し、解決する力を身に付けることができる。
	(ウ) 学びに向かう力、人間性等の涵養	○未来の創り手として自覚し、夢や目標に向かって最後までやり抜く態度を身に付けることができる。 ○学びを日常に生かそうとする態度を身に付けることができる。	○多様な価値を受容・尊重し、信頼と友情を大切にできる態度を身に付けることができる。 ○よりよい人間関係を築き、自分のよさを発揮する態度を身に付けることができる。	○健康・安全な生活を営む実践的態度を身に付けることができる。 ○運動に親しみ体力向上を目指す態度を身に付けることができる。

Ⅲ 本年度後期の学校経営

1 年度の重点教育目標

社会や国際情勢の変化、科学技術等の進歩の加速により、私たちは、今、「VUCA」(Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性)が急速に進展する世界に直面している。このような情勢のなか、OECDが平成30年に提唱した「2030年に向けた学習枠組み (OECD Learning Framework 2030)」には、これからの社会に必要な資質・能力 (Competency) の内容として、Well-beingの重要性について記されている。Well-beingは、これからの時代に必要な資質・能力 (Competency) の構成要素として、「**新たな価値を創造する力**」(Creating new Values)、「**対立やジレンマを克服する力**」(Coping with Tentios & Dirrenmas)、「**責任ある行動をとる力**」(Taking Responsibilities) の3点を挙げている。私たち教職員には、学習者であるすべての子どもたちに対して、一人の人間として全人的に成長を保障していくことが求められている。さらに、学校教育には、子どもたちに対して、**Well-being (個人的・社会的によるよく幸せに生きること)**を追求し、子どもたち一人一人が包摂的で持続的な未来を築くことに貢献し、恩恵を受けることができる知識やスキル、態度、価値を育成していくという重要な責務が求められている。

日本社会及び学校現場に目を向けると、社会全体が長期間にわたり新型コロナウイルス感染症と共に生きていかなければならない状況にある。学校は感染症対策と子どもたちの健やかな学びの保障を両立させながら新学習指導要領の目指す理念を着実に実現させなければならない。令和2年度からスタートした新学習指導要領は、教育課程を地域社会と共有しながら、①「**何ができるようになるか**」(育成を目指す資質・能力)、②「**何を学ぶか**」(教科等を学ぶ意義と、教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)、③「**どのように学ぶか**」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)、④「**子供一人一人の発達をどのように支援するか**」(子供の発達を踏まえた指導)、⑤「**何が身に付いたか**」(学習評価の充実)、⑥「**実施するために何が必要か**」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の学力の3要素を総合的にバランスよく編成し、児童一人一人に確実に「生きる力」を身につけさせることが重要である。

本校は、旭川の住宅地としてめざましく発展した神居町の一地区であるが、富沢峠で隔てられ、富沢地区は、四方を台地に囲まれた狭い沢にあり、中央に伊野川が流れ、静かな農村地帯が広がっている。また、宿泊施設「ふれあいの家」及び「カムイの杜公園」が校舎に近接しており、夏はサッカーやラグビー、冬はバーサーロペット・ジャパン等のクロスカントリー大会の会場として利用されている。このような豊かな自然環境、宿泊・スポーツ施設が隣接する恵まれた環境のなか、外部講師を招聘し稲作体験、春の野山、夏の野山、秋の野山、冬の野山

等の自然体験学習を中心とする特色ある教育活動が推進されている。

本年度は、『自分と友達と』～深く考えよりよく表現し、仲間と共に学び合う子どもの育成～」を重点教育目標に設定しスタートした。『共に学び合う』に重点を置き、一人一人の良い点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出すことができるように取り組んでいく。」が設定理由である。本校は、「特認校」として、富沢地区の豊かな自然や地域等の人的・物的資源を積極的に活用した自然体験活動等の特色ある教育活動を行ってきており、この「学びの活動」は、「自分」と「友達」間にとどまらない。それは、例えば、「田植え」の際の地域の方々との触れ合いや、外部講師を招聘して実施している「春の野山」「夏の野山」等、学校教職員以外の方々や豊かな自然との関わりも深い。また、これらの活動は、学びを蓄積し、社会や未来につなぎ、必要に応じて振り返ることにより、自らの役割の価値や主体的に学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすことになる（キャリア・パスポートの活用）。このように、本校の自然体験等の特色ある教育活動を鑑みたと、年度途中ではあるが、他者や社会、未来との関わりの中で、学校教育目標「夢をもち 未来を拓く子ども」に迫る重点教育目標の見直し・再設定が肝要と考える。

本年度の後期の重点教育目標については、北海道が目指す教育の基本理念「自立と共生」（「自立」：自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む。「共生」：ふるさとへの誇りと愛着をもち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む）や上川管内教育推進の重点（「ふるさと愛し、夢と志をもって、可能性に挑戦するために」）、旭川市学校教育基本計画の基本理念「ふるさと旭川から未来へはばたく子どもの育成」等を踏まえた。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染対策と学びの保障を両輪にした安心・安全な学校づくりを基盤に、未来の創り手となる子どもたちに必要な「資質・能力」を踏まえ、知徳体のバランスや本校の課題等をもとに再設定した。これらの実現に向けては、組織的・協働的な教育活動の充実、関係機関等との連携、家庭・地域への発信力や連携・協働の強化、地域の人的・物的資源の積極的な活用が重要と考える。

本校児童の課題については、次のとおりである。

知の部分については、学校評価から、他者の話を集中して聞き、互いの考えや意見をもとに練り合うことや、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果から、知識・理解等の基礎学力に課題がみられる。そのため、授業内容を明確にし、定着を図るため、課題把握や振り返り、「学びのプラン」の提示など、授業改善を進める。また、①ICTの活用や全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現による学習内容の確実な定着、②児童の実態と課題を踏まえた学習規律（「富沢小スタンダード」）の見直しなど、学校全体で取り組む学びの環境づくり、③1日の家庭学習の時間やスマホ・タブレット・パソコンの使用時間、ゲームやテレビの時間、読書の時間などについて、望ましい生活習慣や学習習慣の定着のため、家庭や地域との連携・協働の強化を図る。

徳の部分については、日頃から友達との良好な人間関係を基盤にした学級指導や生徒指導を進めている。しかし、きまりを守り、楽しく学校生活を送っている児童が多い反面、他者との関係をうまく築けない児童や言動のアンバランスさを感じさせる児童も見受けられ、家庭や関係機関との連携が引き続き必要である。新型コロナウイルス感染症によってPTA活動や地域行事等の制限や中止により、最近では、子どもたちはもとより、家庭や地域間のつながりも希薄になりつつあり、好ましい人間関係を上手く築けない家庭も増えている。今まで以上に、児童が協力し合い、互いに認め合い、高め合う教育活動を意図的に設定するとともに、PTA等の機能を活用し、家庭・地域との連携・協働の強化を図る。

体の部分については、新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見えない中、基本的な感染対策を自ら行うことや火災や地震等の危機対応について、「自らの命は、自ら守る」等の安全意識や防災意識等を育む指導を引き続き行う。また、新体力テスト等の結果から、本校児童は、富沢タイム等の時間を活用した体力づくりの取組によって一定の成果がみられるものの、意欲や運動能力・技能の個人差が大きい。児童一人一人の運動習慣等に関する意欲及び積極的に運動に親しむ態度を育み、体力・運動技能の向上のため、家庭や地域との連携・協働の強化を図る。

知徳体のそれぞれの課題解決にあたり、職員同士が組織的に意思疎通・共通理解を図り、家庭や地域、関係機関、中学校や幼稚園・保育所等の異校種と十分に連携・協働し、子どもたちの確かな成長を実感する教育活動を推進するため、特に、次の3点を重視する。

（１）家庭・地域・関係機関等と連携・協働し、Withコロナ時代の新しい学校運営の実現

新型コロナウイルス感染症は、学校教育の様々な活動を振り返り、見直すきっかけになった。未だ終息が見えない中、学校は、感染対策を継続しつつ「学び」を止めない、「Withコロナ」に舵をきることになるだろう。効率的・効果的な学校運営の在り方を家庭、地域、関係機関等と連携・協働しながら、児童が互いの心を通わせ、人格を尊重し合う風土の醸成を図り、互いの活躍や成長、多様な価値等を認め合いながら切磋琢磨し、子ども自身が人間としての成長をし続ける学校を目指す。

（２）あたたかな人間関係の中で、夢・希望を育み、心と身体を躍動させる教育活動の実現

夢や希望は、主体的に新しいことや苦手なことに挑戦する原動力である。自分の学びや挑戦が他者や社会に認められることで、さらに、夢や希望をもって未来をたくましく生きることが出来る。そこで、キャリア・パスポート等を活用して、自分自身のよさや得意なところなどを理解させ特性を伸ばし、互いを認め合い、高め合う教育の充実を図る。また、すべての教育活動に「個別最適な学び」「協働的な学び」を適切に組み合わせ、学ぶ喜びや意味を理解させる学校を目指す。

（３）高い同僚性と協働性を基盤に学び続け高め合う教職員集団の実現

子どもたちが健やかに成長するためには、私たち教職員が「教育のプロ」としての確かな理念と誇り、強い使命感、高い専門性と倫理観をもって協働歩調で教育にあたることが肝要である。感染症対策と子どもたちの健やかな学びの保障を両立させながら不断の授業改善を行うためには、教師自身が常に熱い情熱と学び続ける向上心、協働的な取組の姿勢をもち、高い同僚性が発揮される学校を目指す。

このような理由から、本年度の後期重点教育目標は、次の通りとする。

令和4年度 《後期》重点教育目標

人・社会・未来とつながるWell-being2022

～学び合う・教え合う・認め合う・助け合う・励まし合う子どもの育成～

知	進んで学び、豊かに表現する かしこい子
徳	互いに、認め合い・助け合う あかるい子
体	めあてに向かってやりぬく たくましい子

□ 令和4年度 育成を目指す資質・能力

	知 進んで学び、豊かに表現する かしこい子	徳 互いに、認め合い・助け合う あかるい子	体 めあてに向かってやりぬく たくましい子
(ア) 知識及び技能の習得	○学習内容を理解し、習得することができる。	○物事は様々な見方ができることを理解することができる。	○健康・安全に過ごすために必要なことを理解することができる。 ○基本的な運動の体の動かし方を理解し、実践することができる。
(イ) 思考力・判断力・表現力等の育成	○課題を発見し、解決に向けて見通しと道筋を立てて考えることができる。 ○情報を集め、活用し、発信することができる。	○自分のことを知り、様々な角度から物事を考えることができる。 ○多様な価値観を認め、他者対話・交流することができる。	○健康・安全・運動に関する課題を見付け、生活の中で解決することができる。
(ウ) 学びに向かう力、人間性等の涵養	○なりたい自分に向かって最後まで努力することができる。 ○日常生活の中に学んだことを生かそうとすることができる。	○いろいろな価値観を認め、他者を大切にすることができる。 ○相手のよさがわかり、集団の中で、自分のよさを発揮することができる。	○健康・安全に生活するために具体的に取り組むことができる。 ○運動に親しみ体力を向上させようとするすることができる。

□ 令和4年度 育成を目指す資質・能力の学年別の具体

《知》進んで学び、豊かに表現する かしこい子		
低学年	中学年	高学年
自分の考えがもてる子	考えをもって進んで学ぶ子	見通しをもって考える子
○約束や学び方を身に付け、学習を進めることができる。 ・自分の考えを発表することができる。 ・人の話をしっかり聞くことができる。 ・進んで発表することができる。	○解決方法を見つけ、交流しながら学習を進めることができる。 ・自分の考えと比べながら聞くことができる。 ・見通しをもち、工夫して表現することができる。 ・考えの根拠や理由を伝えることができる。	○他の考えや情報を整理し、課題解決し、学習を進めることができる。 ・自分の意見との違いや同じ所に気付くことができる。 ・自分や友達によさに気付き、お互いに高め合おうとすることができる。 ・わかりやすく工夫して表現することができる。
《徳》互いに、認め合い・助け合う あかるい子		
低学年	中学年	高学年
明るい気持ちで生活できる子	友達と助け合える子	行動に責任がもてる子
○友達に優しく接し、仲良く生活することができる。 ・進んで挨拶や返事をするすることができる。 ・友達仲良く過ごすことができる。 ・ルールがわかり、守ることができる。	○相手の気持ちを大切にし、力を合わせるができる。 ・仲間と協力しながら行動することができる。 ・明るい心で誰とでも仲良くすることができる。 ・ルールの意味がわかり、判断することができる。	○よさや違いを認め合い、高め合うことができる。 ・相手の様子や気持ちに気付き、思いやりのある行動をとることができる。 ・言葉づかいに気をつけることができる。 ・問題意識をもち、正しい判断をすることができる。
《体》めあてに向かってやりぬく たくましい子		
低学年	中学年	高学年
自分からやろうとする子	最後まであきらめない子	粘り強く工夫して努力する子
○めあてをもち、いろいろな運動を楽しむことができる。 ・めあてをもち、進んで行うことができる。 ・最後までがんばることができる。 ・命を大切にすることができる。	○めあてをもち、友達と協力して、運動することができる。 ・めあてをもち、最後まで努力することができる。 ・基本的な生活習慣を身に付けることができる。 ・運動する習慣をもつことができる。 ・命を大切にすることができる。	○見通しをもち、工夫して運動することができる。 ・めあてをもち、体力づくり等に粘り強く取り組むことができる。 ・生活を振り返り、よりよい生活をしようとする努力することができる。 ・命を大切にすることができる。

□ 令和4年度 教職員の共通行動

昨年度、2件の深刻ないじめ事案があったことから、次の2点を教職員の共通行動として、日々実践を積み重ねるとともに、子どもたちや家庭、地域にも周知を図り、円滑な学校運営に努める。

- 1 子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ 家庭・地域に帰す。
- 2 自分や仲間 の心や身体を傷つける言動は 絶対に許さない。

2 年度の重点経営方針

(1) 地域とともにある学校づくり

- ① 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等の取組の推進
- ② 望ましい基本的生活習慣の定着や家庭学習習慣の充実と共通理解にたった家庭との連携・協働
- ③ 神居中学校との教育課程の連携強化を図る神居地区小中連携教育会議の推進
- ④ 学校だよりの発行やホームページの更新、マチコミメールの活用等による情報発信力の強化

(2) 全教職員の経営参画を図る組織マネジメント

- ① 目標や課題の共有、教職員の主体的な学校運営への参画、同僚性や協働性を重視した校務の推進
- ② 各部・分掌・全体での打合せを密にし、迅速な対応、情報共有、組織的・協働的な取組の推進
- ③ 検証改善サイクルの実質化・迅速化の取組の推進

(3) 教育目標の具現化を目指すカリキュラム・マネジメント

- ① P D C A サイクルによる、組織的・計画的な教育活動の改善・充実
- ② 「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善による検証改善サイクルの強化
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」を育む授業改善及び家庭学習の定着・充実などの取組の推進

(4) 教師と児童との良好な信頼関係の構築及び児童相互のよりよい人間関係を育てる学級経営

- ① 年度の重点教育目標の具現化を図る学級経営の推進
- ② 一人一人が思いや力を出し合える学級経営の推進
- ③ 良好な信頼関係を育み、充実感と所属感を味わえる学級経営の充実

(5) キャリアステージに応じて求められる資質を高める研修活動

- ① 「北海道における教員育成指標」に基づき、キャリアステージに応じた資質能力の向上
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた不断の授業改善の推進
- ③ 外国語教育、ICTの活用、「特別の教科 道徳」、いじめ・不登校など今日的な教育課題に対応した研修の充実

(6) 安全で潤いのある教育環境整備

- ① 校舎内外の施設・設備の美化、整理整頓に努めるとともに、感染症対策など安心安全の推進
- ② 言語環境の整備、机上等の整理整頓、ユニバーサルデザインに基づく統一感のある掲示物の工夫
- ③ 教室や廊下、グラウンドなど校舎内外の日常的な清掃・美化及び定期的な安全点検の推進

(7) 組織で取り組む危機管理

- ① 子どもや家庭、地域の信頼に応える教育公務員としての自覚の向上や服務規律の厳正な保持
- ② 地域、家庭、関係機関と連携した危機管理の推進
- ③ 学校の実態や状況、課題に応じた危機管理体制の確立及び避難・防災訓練の実施

(8) 適切で効率的な運用を図る学校事務

- ① 諸帳簿及び文書管理の徹底
- ② 効果的な予算執行と適切な事務処理の推進
- ③ 市教委との連携を図った事務処理の推進

(9) 学校の活性化を図る学校職員人事評価

- ① 年度の重点教育目標と関連を図った自己目標の設定
- ② 年度の重点教育目標と関連を図った目標達成のための具体的取組方法の設定

(10) 働き方改革（富沢小学校アクション・プラン）の推進

- ① 富沢小学校アクション・プランの行動計画が目指す目標及び具体的取組内容に基づく働き方改革の推進
- ② ICTを活用した学校評価等の実施やスズキ校務支援システムの積極的活用による業務改善の推進
- ③ 教職員の労働時間に係る各種制度の積極的な有効活用の推進

3 年度の重点指導方針

(1) 主体的・対話的で深い学びによる確かな力を育む学習指導（教務部・研修部・保体部・各学級）

- ① 学習規律の徹底、学び方を身に付ける学習、家庭学習の充実
- ② 基礎的知識・技能の確実な定着と単元全体を通じた「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践
- ③ 課題の提示とまとめの徹底、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現した授業の推進

(2) 豊かな心を育む道徳教育（生徒指導部・道徳推進教師・各学級）

- ① 道徳的実践力を育む「特別の教科 道徳」の指導の工夫
- ② 自分や友だちのよさを実感でき生き生きと豊かに表現・発信できる場の設定と活動の充実
- ③ いじめのない学校づくりの推進

(3) 個と集団のよさを実感する特別活動（生徒指導部・各学級）

- ① 学級への所属感や仲間との協力性を高め、自己有用感をもたせる指導の工夫
- ② よりよい生活を築くために自分たちでいじめの撲滅活動やきまりを作り、守る活動などの取組の充実
- ③ 望ましい人間関係や所属感・有用感を醸成する学級活動や育てたい力を明確にした集団活動の充実

(4) 地域の特色や今日的課題を踏まえた総合的な学習の時間（教務部・各学級）

- ① 課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のサイクルの中で、学び方や探求的なものの見方・考え方を働かせ、探求的な学習を行う指導の工夫・改善
- ② 育てたい資質・能力を明確にした指導計画及び主体的な学びを促す評価の工夫
- ③ 地域の人的・物的教育資源を積極的に活用し、学びの質の向上を育む特色ある単元の実践・検証・改善

(5) 自己をよりよく導く生徒指導（生徒指導部・各学級）

- ① 教職員の共通理解・共通行動に立った、日常の微かな変化も見逃さない組織的な指導体制の確立
- ② 日常の微かな変化を見逃さない観察や教育相談、事例研等を通じた児童理解の充実
- ③ 挨拶を中心に児童相互の心のふれあいの推進と明るい返事の徹底、自他の心を育て、いじめの未然防止等を図る指導の推進

(6) 一人一人のニーズに応じた組織的な対応（特別支援教育コーディネーター・各学級）

- ① 自立と共生を基盤に、個々の教育的ニーズに応じた「個別の教育支援計画・個別の指導計画」、「児童生徒理解・教育支援シート」の作成と更新
- ② 家庭や関係機関と連携した組織的対応の確立と推進

(7) よりよい生き方を目指すキャリア教育（教務部・生徒指導部・各学級）

- ① 子どものよさや可能性をのばすキャリア教育の充実と自己評価の工夫（「キャリア・パスポート」の活用）
- ② 自らの役割や責任を果たし、集団の中で自己を生かす指導の工夫
- ③ 見学や体験活動、外部講師の活用等、生徒の望ましい勤労観や職業観を培う指導の充実

(8) 外国語によるコミュニケーション能力を育む国際理解教育（教務部・各学級）

- ① 異文化や外国語に興味をもち、生き生きと活動する指導計画の作成
- ② 「聞くこと」「話すこと」等を通して音声や表現に慣れ親しむ指導方法とALTの効果的な活用による授業改善の推進
- ③ コミュニケーションを図ることへの興味・関心を高める指導方法の工夫

(9) 情報活用能力を育む情報教育（教務部・各学級）

- ① コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用するためのメディア・リテラシーや情報モラル等を育成する学習活動の充実
- ② コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器、ICT機器などの教材・教具の適切な活用の充実
- ③ コンピュータの基本的な操作を確実に身に付けるための学習活動やプログラミング的思考を育む教育活動の充実

(10) 生命を尊び、自ら心身を鍛える健康教育（保体部・生徒指導部・各学級）

- ① 新体力テスト等の実施による運動能力・習慣の把握、家庭・地域との情報共有
- ② 全校で取り組む体力づくりなど、体力・運動能力の向上を図る取組の充実
- ③ 健康、運動、安全意識の高揚と危険回避能力の育成
- ④ 食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育指導の充実
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症に対する正しい知識と実践的行動を身に付ける指導の充実

(11) 地域の特質を生かした複式教育（教務部・各学級）

- ① 地域の資源や人材を活用し、地域と一体となった教育活動の計画と改善
- ② 旭川市小規模・複式教育研究連盟と連携した複式教育の充実